

# 平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

## ○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第3学年（男子37名、女子42名、計79名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 社会・理科・英語

## 社会科

### 1 結果の分析

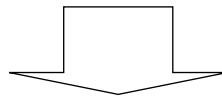
#### (1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

##### ○全体的な状況の説明

- ・『日本の地域構成』の領域では、本校が47.7%、台東区が47.5%、全国が55.7%で区平均との差は+0.2ポイント。
- ・『世界と比べた日本の地域的特色』の領域では、本校が46.3%、台東区が45.6%、全国が48.1%、で区平均との差は+0.7ポイント。
- ・『日本の諸地域』の領域では、本校が47.7%、台東区が48.1%、全国が51.8%で区平均との差は-0.4ポイント。
- ・『身近な地域の調査』の領域では、本校が62.0%、台東区が58.5%、全国が62.0%で区平均との差は+3.5ポイント。
- ・『近世の日本』の領域では、本校が49.3%、台東区が54.0%、全国が61.1%で区平均との差は-4.7ポイント。
- ・『近代と日本と世界』の領域では、本校が43.7%、台東区が43.5%、全国が51.5%で区平均との差は+0.2ポイント。
- ・『身近な地域の調査』の領域を除いては、全国平均と大きな開きがある。特に『日本の地域構成』は-8%、『近代の日本と世界』は-7.8%、『近世の日本』においては-11.8%と正答率の低さが著しい。観点別正答率は4観点すべて区の平均を下回っており、全国平均は各観点ともに5~8ポイントほど下回っている。基礎的な内容が身に付いていないため、受検対策を含めた授業展開と、実践形式を取り入れた復習問題を実施していく。

#### (2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
・緯度、経度、日本の気候区分についての理解が十分でない。 ・安土桃山から明治時代に至る動きと組織についての理解が十分ではない。	→緯度、経度、気候のメカニズムと関連性の理解に課題がある。 →安土桃山から明治時代までの時代の流れと背景を理解させる必要がある。



### 2 改善策

#### (1) 実態に沿った具体的な改善策

知識・理解の向上	・緯度経度の基本知識とメカニズムを説明する。 ・理解させる内容については、身近にある具体的なものにたとえて説明することを心がける。
思考力・記述力の向上	・教科書を元にしたプリントを作成し、それを参考に各自でノート作りをさせる。
復習によるテストの実践	・3年間のまとめ(副教材)を使用した重要語の確認作業と平行して単元毎の小テストを繰り返し、知識を定着させる。 ・単元毎の小テストの結果を受けて、間違えた箇所をやり直しさせて再提出させる。 ・基礎的な内容が身に付いていないため、受検対策を含めた授業展開と、実践形式を取り入れた復習問題を実施していく。

#### (2) 改善策に対する検証

- 3年間のまとめテストで60%以上を合格として知識の定着を判断する。それ以下の生徒には、再テストを実施し、学力の定着を図る。
- eライブラリーを活用して基礎的知識を定着させ、80%以上の生徒に十分な学力を定着させる。

# 平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

## ○調査の概要【全国学力・学習状況調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第3学年（男子38名、女子44名、計82名）
- ・実施日 平成29年4月18日
- ・実施教科 国語・数学

## 数学科

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

##### ○全体的な状況の説明

- ・数学A（主として知識）では、全国の平均を1.6ポイント下回っている。数学B（主として活用）では、全国の平均を1.9ポイント上回っている。
- ・領域別の視点で見ると、数学Aでは4領域全てにおいて全国の平均を下回っている。特に資料の活用の領域では、都の平均を5.4ポイント下回っており、確率や相対度数を求めることを苦手としている生徒が一定数いることがうかがえる。一方数学Bでは、4領域すべてが全国の平均を上回っている。
- ・観点別の視点で見ると、数学Aでは「技能」「知識・理解」で全国平均を下回っている。数学Bでは、「見方・考え方」は全国平均を2.8ポイント上回っているが、「技能」「知識・理解」では全国平均を0.7～1.1ポイント下回っている。
- ・問題別の視点で見ると、数学Aでは扇形の弧の長さの求め方や、円柱の体積の求め方、平行四辺形になる条件を選択する問題で正答率が50%を下回っていた。このことから、公式や定義が十分に定着していないことがうかがえる。数学Bでは、説明する問題で正答率が50%を下回っていたため、自分が判断した根拠を言葉にする能力の育成が必要である。

#### (2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"><li>・公式や図形の定義が十分に定着しているとは言えない。</li><li>・計算する問題や選択式の問題を解く技能は身に付いているが、論理的に説明する能力は不十分である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>→数学的な言葉や公式の意味を理解できていない。</li><li>→事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することができない。</li></ul>

### 2 改善策

#### (1) 実態に沿った具体的な改善策

数学的な言葉や定義の定着	<ol style="list-style-type: none"><li>① 新しい言葉や公式に限らず、既習の言葉や公式であっても毎回意味を確認する。</li><li>② 図や絵でのイメージをもたせるなど、様々な角度から言葉や定義を捉え、理解できるように工夫をする。</li></ol>
論理的思考力の育成	<ol style="list-style-type: none"><li>① 計算問題においてもどのように解いて答えを導いたのかお互いに説明し合う機会を設ける。</li><li>② あえて誤りのある記述を提示して「どこが誤っているのか」を考えさせる機会を設け、思考力を育む。</li></ol>

#### (2) 改善策に対する検証

- ・日頃の授業において、ただ結果を求めるだけでなく「どのように考えてこの答えになったのか」を言葉にしたり説明させたりする機会を多く設ける。
- ・定期テストにおいて記述式問題を取り上げ、6割以上の正答率を目標に論理的思考力・表現力が身に付いているかを確認する。

# 平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

## ○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第3学年（男子 38名、女子 44名、計 82名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 社会・理科・英語

## 英語科

### 1 結果の分析

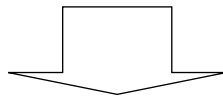
#### (1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

##### ○全体的な状況の説明

- ・教科全体としては、区の平均を0.9ポイント下回っている。
- ・観点別の視点から見ると、4観点の正答率にかなりのばらつきがある。「外国語理解の能力」は特に高いが、逆に、「外国語表現の能力」が他領域と比べて極端に低くなっている（6.1ポイント下回った）。
- ・領域別正答率から判断すると、区平均と比べて「聞くこと」では0.1ポイント、また「読むこと」では3.4ポイント上回っているが、逆に「書くこと」においては5.6ポイント下回った。
- ・問題の内容別に見ると、「リスニング（内容理解）（対話文の応答）」や「さまざま英文の読み取り」は区の平均より5ポイント以上高いが、「3文以上の英作文」と「単語の並べ替えによる英作文」は5ポイント以上低い。

#### (2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"><li>・「英文を書くこと」全般に課題がある。</li><li>・語彙の知識理解に課題がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・英文を書くことになれさせる。基本は、キーセンテンスの暗記からはじまるので、まずは、丁寧に復習を徹底させることが課題である。そしてそれをもとに、場面や条件に応じた英作文演習を実施する必要がある。</li><li>・語形・語法の使い方を理解し定着させる。また長文に触れる機会を増やすことが課題である。</li></ul>



### 2 改善策

#### (1) 実態に沿った具体的な改善策

英文作成能力の育成	<ul style="list-style-type: none"><li>・キーセンテンスの暗記の徹底をする。</li><li>・授業で、目的に沿った表現能力を高めるよう英作文の活動をこまめに行う。（場面設定・字数設定・テーマ設定などの条件をつけて）</li><li>・使用場面にあった文法事項の復習を行う。</li><li>・疑問詞を用いた疑問文作成演習を表現の授業で毎回行う。</li></ul>
語彙の知識理解の定着	語彙の知識理解をワークやプリントなどを適宜使用しながら復習の機会を増やし、定着を図る。

#### (2) 改善策に対する検証

- 英文作成能力の定着については、単元ごと、セッションごとに適宜小テストなどを実施し、キーセンテンスの定着を基板にし、場面ごと、テーマごとに対応した作文練習の定着を図る。
- 定期テストや小テストなどをさらに実施し、70%以上で英文作成能力が定着を図る。
- 小テストや単元テストをとおして、語彙の知識理解の定着を図る。

# 平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

## ○調査の概要【全国学力・学習状況調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第3学年（男子名38、女子45名、計83名）
- ・実施日 平成29年4月18日
- ・実施教科 国語・数学

## 国語科

### 1 結果の分析

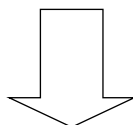
#### (1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

##### ○全体的な状況の説明

- ・領域別では、話すこと・聞くこと分野で、会話文の中でその場に適切な語を答える問題の正答率が低かった。
- ・同じく話すこと・聞くこと分野で、話し合いの結果をまとめる言葉を答える問題の正答率がと低かった。
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項という領域で、楷書と比較したときの行書の特徴を答える問題の正答率が低かった。

#### (2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"><li>・会話文の中でその場に適切な語を答える問題の正答率が59.5%と低かった。（全国・区ともに78.5%）</li><li>・話し合いの結果をまとめる言葉を答える問題の正答率が45.6%と低かった。（全国35.8%・区39.2%）</li><li>・楷書と比較したときの行書の特徴を答える問題の正答率が24.1%と低かった。（全国49.6%・区52.1%）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・どのように伝えれば相手に的確に伝わるか、実際に話すという作業をさせて身につけさせていく必要がある。</li><li>・会議・討議等に用いられる用語についての知識を身に付けさせることが課題である。</li><li>・書写の知識を定着させる機会をもうける必要がある。</li></ul>



### 2 改善策

#### (1) 実態に沿った具体的な改善策

会話文の理解	・会話や対話の文に多く触れさせ、適切な用語が使えるよう演習させる。
話し合いの学習	・討議や対話文の文体に慣れさせ、内容の分析や、理解ができるように指導する。
書写の知識	・書写にまつわる問題等に触れさせ、知識の定着をはかる。

#### (2) 改善策に対する検証

- 定期考査やふだんの授業のテスト等で70%以上の達成を目指し、力の定着を図る。
- 授業で会話文・対話文に触れる機会を作り、70%以上の生徒が分析や理解ができるようにする。

# 平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

## ○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第3学年（男子名38名、女子名44名、計82名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 社会・理科・英語

## 理科

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

##### ○全体的な状況の説明

- ・本校の全体平均正答率は53.5%であり、区の平均を1.0ポイント、全国の平均を6.3ポイント下回っている。目標値には4.9ポイント足りなかった。
- ・「基礎」に関する問題では本校は54.5%であり、区平均より0.2ポイント低く、「活用」に関する問題では50.2%であり、区平均より3.5ポイント低い。全国に比べてもそれぞれ5.4ポイント、8.8ポイント低い結果だった。
- ・領域別正答率では「生命」、「地球」に関しては区の平均よりも高い。しかし「エネルギー」、「粒子」は44.6%、47.8%であり、区平均正答率よりもそれぞれ3.6ポイント、3.8ポイント低かった。
- ・観点別正答率では全ての観点で区平均とほぼ同じか、下回っている。特に「科学的な思考・表現」においては3.1ポイント下回っており、目標値よりも4.5ポイントも低い結果となった。

#### (2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
・「エネルギー」領域において、電流と磁界に関する問題の正答率が低い。	→可視化できていない現象について、図と関連付けながら考察し、説明することが十分にはできない。
・「粒子」領域において、表のデータをもとにグラフに描き入れる問題の正答率が低い。	→データをもとにグラフ化するという、データ処理の仕方が身に付いていない生徒が多い。
・「地球」領域において、窓ガラスに水滴が結露する様子を粒子モデルで考えられない。	→日常的に起こる現象を既習事項と関連付けて、考察することが十分にはできない。

### 2 改善策

#### (1) 実態に沿った具体的な改善策

表現力の育成	適切なモデルを用いて思考させる工夫をする。レポートやプリントを作成する学習活動の中で、自分の言葉で表現し、記述する機会を増やす。
データ処理能力の向上	実験を行った際に、データの処理方法にはいくつかの方法があることを知り、適切な処理方法を選択してできるようにする。グラフを描く作業を意図的に行い、グラフ化の手順や利便性を伝えながら、データ処理の能力向上を図る。
思考力の育成	各単元で考えられる日常的な事象に関する事柄について、具体的な例を挙げて考察させる場面を設ける。

#### (2) 改善策に対する検証

- 自己評価や小テストなどの結果を参考にして、授業中に具体的に指摘し、生徒たちの習得状況に合わせた課題を出す。
- 到達度の低い単元については、補助プリントを用いて継続的に指導を行う。
- 2学期に実施する到達度テストにおいて同様の結果分析を行い、生徒の実態を把握し60%達成できるように、さらなる授業改善につなげる。